



説明を行った上で、研究に参加しない場合でもなんら不利益を被らないこと、途中での参加中止も自由であることなどについても言及し、保護者の自由意思を最大限に尊重して了承を得たことを診療録に保存する。

## C. 研究結果

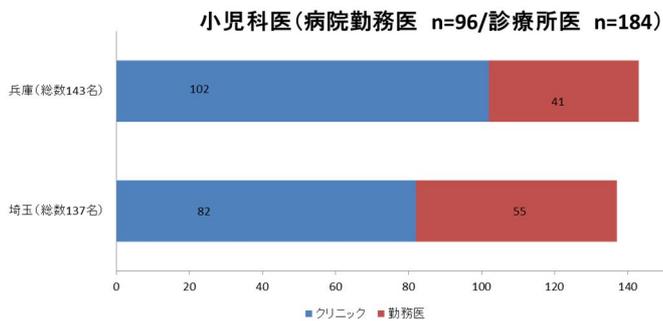
### 1. 回収結果

埼玉県 (704名): 回収 182名 (男 123、女 58。回収率 25.8%)

小児科医 137名 (その他は精神科医、内科医)

兵庫県 (427名): 回収 149名 (男 98、女 49。回収率 34.9%)

小児科医 143名 (その他は精神科医)

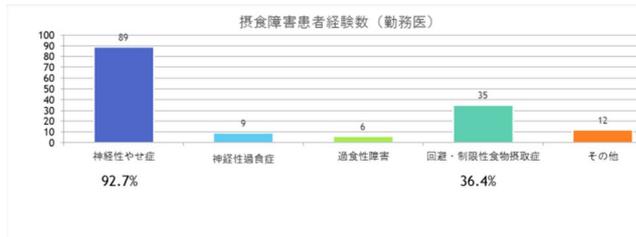


### 摂食障害の診療経験

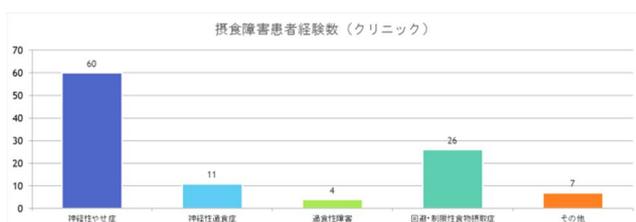
病院勤務医 90%以上が AN の診療経験があった。神経性やせ症と回避・制限性食物摂取症の経験が多かった。

### 病院勤務医

n=96



### クリニック医師 n=184

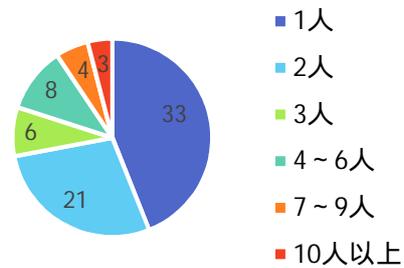


摂食障害経験ありの医師に対し質問。

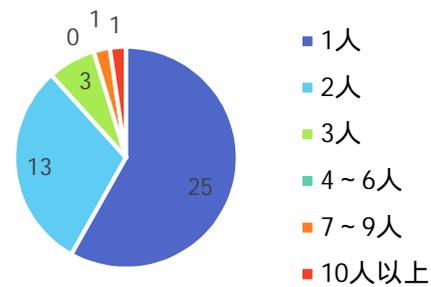
この1年間でおよそ患者数は？

1~2名が多いが、病院勤務医は複数患者の診療経験が25%ある。病院勤務医では偶然診療しているのではなく、摂食障害診療を行っていると考えられる。

2-1 この1年間でのおおよその患者数  
神経性やせ症 (勤務医)

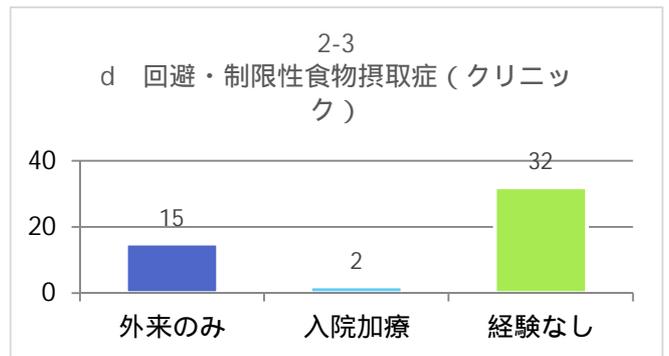
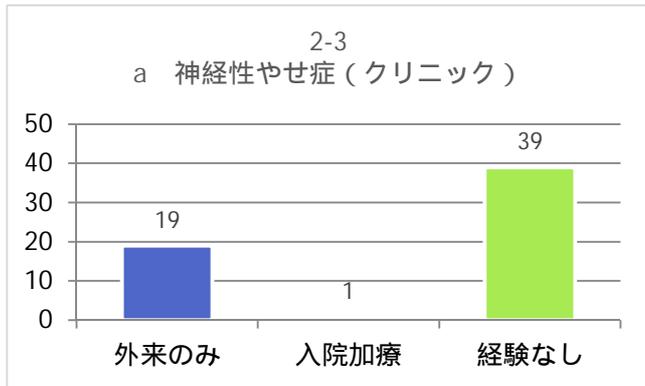
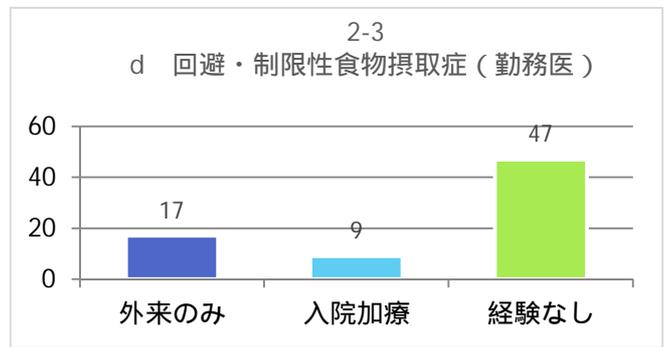
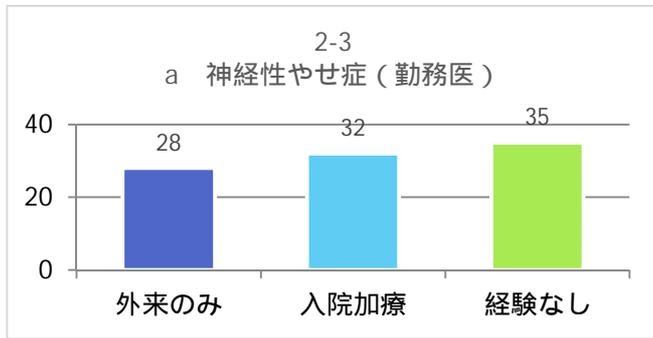


2-1 この1年間でのおおよその患者数  
神経性やせ症 (クリニック)

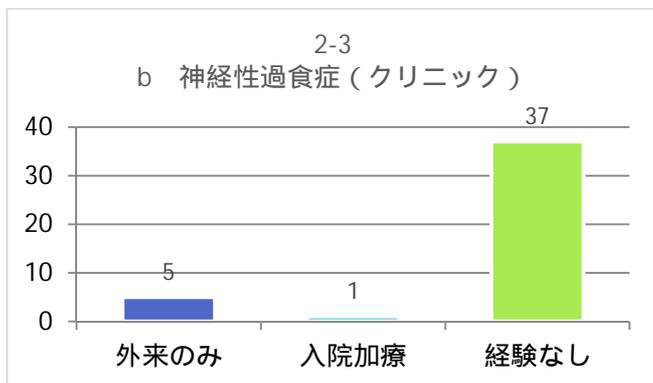
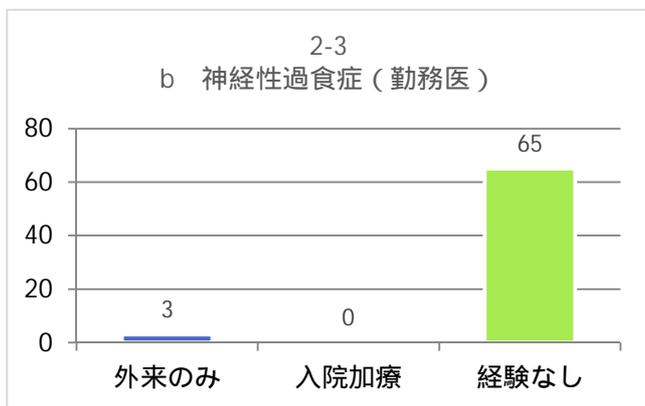


この1年間で診療した経験は？

病院勤務医は入院加療も行っていた。



回避・制限性食物摂取症の診療はクリニックでも行っている。



小児科診療では神経性過食症の診療経験は少ない。